

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【公表番号】特表2002-520297(P2002-520297A)

【公表日】平成14年7月9日(2002.7.9)

【出願番号】特願2000-558846(P2000-558846)

【国際特許分類】

**A 6 1 K 47/48 (2006.01)**

**A 6 1 K 45/00 (2006.01)**

**A 6 1 K 49/00 (2006.01)**

**A 6 1 K 49/04 (2006.01)**

**A 6 1 P 35/00 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 49/00 A

A 6 1 K 49/04 A

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月7日(2006.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】治療剤に作動可能に付着されたアミノリン脂質に結合する標的化剤を含む結合リガンドであって、ここで該標的化剤は、細胞傷害性薬剤に結合体化される、アミノリン脂質自己免疫疾患を伴う患者から得られる抗ホスファチジルセリン抗体ではない、結合リガンド。

【請求項2】前記標的化剤が抗アミノリン脂質抗体またはそれらの抗原結合フラグメントを含む、請求項1に記載の結合リガンド。

【請求項3】前記標的化剤が、モノクローナル抗アミノリン脂質抗体、二重特異的抗アミノリン脂質抗体、キメラ抗アミノリン脂質抗体、組換え抗アミノリン脂質抗体、操作された抗アミノリン脂質抗体、ヒト抗アミノリン脂質抗体、ヒト化抗アミノリン脂質抗体または部分ヒトキメラ抗アミノリン脂質抗体、あるいはそのs c F v抗原結合フラグメント、F v抗原結合フラグメント、F a b '抗原結合フラグメント、F a b抗原結合フラグメント、またはF ( a b ' )<sub>2</sub>抗原結合フラグメントを含む、請求項1に記載の結合リガンド。

【請求項4】前記標的化剤が、アミノリン脂質結合タンパク質またはそれらのアミノリン脂質結合フラグメントを含む、請求項1に記載の結合リガンド。

【請求項5】前記標的化剤は、アネキシンまたはキニノーゲン、またはそのアミノリン脂質結合フラグメントを含む、請求項1に記載の結合リガンド。

【請求項6】前記標的化剤がホスファチジルエタノールアミンに結合する、請求項1～5のいずれか一項に記載の結合リガンド。

【請求項7】前記標的化剤がホスファチジルセリンに結合する、請求項1～6のいずれか一項に記載の結合リガンド。

【請求項8】前記標的化剤がアミノリン脂質 - タンパク質複合体に結合する、請求

項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の結合リガンド。

【請求項 9】 前記標的化剤がホスファチジルセリンおよび 2 - 糖タンパク質 I 複合体に結合する、請求項 8 に記載の結合リガンド。

【請求項 10】 前記標的化剤が抗細胞性薬剤または細胞傷害性薬剤に付着される、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の結合リガンド。

【請求項 11】 前記標的化剤が、ステロイド、サイトカイン、代謝拮抗物質、アントラサイクリン、ピンカアルカロイド、抗生物質、アルキル化薬剤、エピポドフィロトキシン、DNA 合成インヒビター、ダウノルピシン、ドキシルピシン、アドリアマイシン、または植物由来毒素、真菌由来毒素または細菌由来毒素に付着される、請求項 10 に記載の結合リガンド。

【請求項 12】 前記標的化剤が凝固因子に付着される、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の結合リガンド。

【請求項 13】 前記標的化剤が組織因子、二量体組織因子、三量体組織因子、多量体組織因子、変異体組織因子、短縮型組織因子、または組織因子誘導体に付着される、請求項 12 に記載の結合リガンド。

【請求項 14】 リポソーム処方物または薬学的に受容可能な処方物として処方される、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の結合リガンド。

【請求項 15】 血管化腫瘍を有する動物への投与の際の癌の処置において使用するための、請求項 1 ~ 14 のいずれか一項に記載の結合リガンド。

【請求項 16】 腫瘍血管内皮細胞を殺傷するか、または血管化腫瘍の血管系における凝固を破壊もしくは誘導することによる癌の処置のための医薬品の製造における、請求項 1 ~ 15 のいずれか一項に記載の結合リガンドの使用。